

論文・総説

「脳卒中後の抑うつ的な対象者に対して CAOD と ADOC を併用した事例」

OT 川口悠子 小林由衣 齋藤佑樹

作業療法 第 43 巻 3 号 : 400-406, 2024 年 6 月 15 日

「三叉神経・自律神経性頭痛の診断と治療」

Dr.石崎公郁子

カレントセラピー～特集 頭痛からみえる疾患～ 第 43 巻 第 1 号 : 36-42, 2025 年 1 月 1 日

第 1 章 各論～ケースファイル 第 2 章 総論～慢性頭痛に使われる薬剤

Dr.石崎公郁子

頭痛診療が劇的に変わる！～すぐに活かせるエキスパートの間診・診断・処方の方

2025 年 2 月 10 日

「Quantification of Motor Learning in Hand Adjustability Movements: An Evaluation Variable for Discriminant Cognitive Decline」

Kazuya Toshima, Yu Chokki, Toshiaki Wasaka, Tsukasa Tamaru, Yoshifumi Morita,

IEEE J Transl Eng Health Med. 2025 Feb 10:13:75-84.

「手の巧緻動作による運動学習の定量化から認知機能低下を判別するモデルを提案する」
本論文は、認知機能の低下を評価するための課題設計についてまとめたものである。iWakka という機器を用いて提案した課題を実施した結果、健常高齢者と軽度認知機能障害（以下、MCI）を有する高齢者との間に統計的に有意な差が確認された。これにより、本課題設計は MCI を識別するための有効な指標となる可能性が示唆された。

「目標カレンダーの活用により、本人や多職種と協働的な介入が行えた認知症症例の報告」

OT 宮田帆乃香 西川可奈子 川口悠子

愛知作業療法 第 33 巻 : 44-49, 2025 年 3 月 31 日

学会発表

【国際学会発表】

「Quantifying motor learning for an assessment variable to discriminate MCI」

Kazuya Toshima, Yu Chokki, Toshiaki Wasaka, Tsukasa Tamaru, Yoshifumi Morita,

18th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation (ISPRM) 2024.

Jun.3,2024 Sydney

VI 学術活動・研究会活動

「Development of an evaluation model for cognitive decline by quantification of motor learning」

Kazuya Toshima, Ryo Takato, Tsukasa Tamaru, Yoshifumi Morita,

2024 International Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology (i-CREATE) 23-26 August, 2024 | Shanghai, China

iWakka から得られた評価変数と、一般的な認知機能評価を用いた軽度認知機能障害（MCI）者の判別精度に着目している。最初に、ISPRM2024 では Random Forest を用いて判別モデルを構築した。その結果、iWakka から得られた評価変数を用いることで、より高い判別精度が得られることが示された。次に、iCREATE2024 では、さまざまな機械学習アルゴリズムに着目し、モデル構築に適した手法の検証を行った。その結果、K 近傍法（KNN）が有効であることが明らかとなった。このように、分析と検証を繰り返した結果を2つの学会にて報告した。

「Using Brain-Machine Interface (BMI) intervention for subacute stroke patient with severe upper limb」

OT Takahiro Noguchi, Kazuya Toshima, Dr Tsukasa Tamaru, Yoshino Ueki

第8回アジア太平洋作業療法学会（APOTC 2024） 2024年11月6日～9日

近年、上肢の重度麻痺に対する介入方法として Brain-Machine Interface（以下「BMI」）が考えられており、8報以上のメタアナリシスや2023年改定の脳卒中ガイドラインでもその有効性が認められるようになった。今回は BMI を被験者に対して実際に使用し、安全性と有効性について確認した。結果としては安全性が確認された。また、手指のコントロールがわずかではあるも改善する様子が確認できた。

【国内学会発表】

指定講演

「頭痛性疾患の支障度に性差はあるか」

～シンポジウム12 女性支援の面から考える頭痛医療～女性が生き生きと活躍するために何が必要か～

Dr.石崎公郁子

第52回日本頭痛学会総会 2024年12月7日

一般演題

「被殻出血患者における回復期リハビリテーション病棟退棟時の階段昇降能力の予測因子」

PT 澤島佑規

「回復期リハビリテーション病棟退棟3ヶ月後の自宅内外での転倒に関わる因子」

PT 佐藤直弘 澤島佑規 川口悠子

第32回 愛知県理学療法学会 2024年5月19日

「目標カレンダーの活用により、協働的な介入が行えた認知症症例の報告」

OT 宮田帆乃香、川口悠子、西川可奈子、

第 32 回 愛知県作業療法学会 2024 年 5 月 19 日

「亜急性期脳卒中者の重度上肢麻痺に対する Brain Machine Interface の使用報告—単一事例検討—」

OT 野口貴弘 Dr.田丸司 植木美乃

「運動学習を評価変数とした軽度認知機能低下の判別モデルの提案～機械学習を利用したモデル構築を通して～」

OT 戸嶋和也 Dr.田丸司 森田良文

「麻痺側上肢の痛みの分類と運動制御との関係性—単一事例検討—」

OT 小林美奈 戸嶋和也 Dr.田丸司 森田良文

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2024 年 6 月 13 日～16 日

「体外衝撃波治療による下腿三頭筋の痙縮への介入における改善者と非改善者の患者属性および照射設定の違い」

PT 奥田翔吾 溝脇亮 小林広空 安立優花 木下友里 野呂一期 伊藤良太

「Shared Decision Making の実施により意思決定の葛藤が軽減した一症例」

PT 溝脇亮

「痺れ感により麻痺側上肢の使用頻度が低下した被殻出血例—痺れ同調 TENS による治療介入—」

PT 佐藤直弘

第 40 回東海北陸理学療法学会 2024 年 9 月 7 日

「右大腿骨頸部骨折による不安感・恐怖心が ADL 向上に影響した症例への介入報告」

OT 熊谷有沙 川口悠子 根井愛菜

「重度運動麻痺患者の麻痺手使用を促すために ADOC-H を活用した介入報告」

OT 上地朱音 川口悠子 大野勘太

「目標設定の質と手順の評価 (Process and quality of goal-setting : PGS) の開発—内容妥当性の検証—」

OT 川口悠子 友利幸之介

第 23 回東海北陸作業療法学会 2024 年 9 月 15 日

「回復期リハビリテーション病棟入棟時に経管栄養が必要な脳血管疾患患者の経口摂取獲得可否に関する要因」

PT 伊藤剛 伊藤良太

「視床出血患者における皮質脊髄路走行領域の損傷度と下肢運動機能との関係」

PT 澤島佑規 矢部広樹 足立浩孝 田中善大

「痙縮の病態評価に基づいて介入方法を決定・変更した一症例」

PT 溝脇亮

VI 学術活動・研究会活動

「痙縮を有する回復期脳卒中片麻痺患者の下腿三頭筋への体外衝撃波治療が歩行速度に与える即時効果について」～セレクション演題（ポスター）に選出～

PT 小林広空 溝脇亮 奥田翔吾 安立優花 木下友里 野呂一期 伊藤良太
第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024 年 9 月 28 日・29 日

「脳卒中低栄養患者に対して栄養士とリハビリテーション栄養を実践し ADL 改善が図れた一症例」

PT 森戸裕也 RD 松本早織

リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024 2024 年 10 月 3 日・4 日

「回復期のリハビリテーション看護計画に適用できる「ウェルネス看護課題」の開発」

Ns 小笠原広実

日本リハビリテーション看護学会 第 36 回学術大会 2024 年 11 月 2 日・3 日

「罹病日数の違いが脳卒中片麻痺患者の下腿三頭筋への体外衝撃波治療の痙縮改善効果に及ぼす影響」

PT 溝脇亮 奥田翔吾 小林広空 安立優花 木下友里 伊藤良太

「回復期頸髄不全損傷者の両側大腿四頭筋に対する電気刺激併用下での反復起立自主練習が下肢筋力やバランス機能、歩行能力に与える影響 -ABAB デザインを用いた 1 症例での検証-」

PT 小林広空 澤島佑規 溝脇亮

日本物理療法合同学術大会 2025 2025 年 2 月 2 日

「維持期へ移行した失語症者への訪問看護師の視点と役割」

Ns 清水彩夏 今井志保 武藤愛美 小笠原広実

「看護師としての回復期リハビリテーション病棟の地域連携での役割 ～早期から退院支援に取り組めるための情報収集を通して～」

Ns 西川恵美 宮崎玲子 安藤三奈子 高野弓

「理学療法士の体調改善に向けた取り組みについて～体調に関するアンケートとその後の対策～」

PT 北村夏子 溝脇亮 澤島佑規 奥山康博 宇佐美友加里

回復期リハビリテーション病棟協会 第 45 回研究大会 in 札幌 2025 年 2 月 21 日

研究会活動

「退院後の生活を意識したナースリハビリの提供」～最優秀演題賞 受賞～

Ns 坂本美貴 山田ゆり

第 14 回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会 2024 年 7 月 20 日

2024 年 7 月 20 日、コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会が大阪で開催され、看護部から本演題を発表しました。病棟での ADL が自立の場合自宅生活での IADL が見過ごされやすいことを問題とし、看護師からのアプローチとして取り組むことは素晴らしいと評価されました。

「穏やかに入院生活を送るための支援～安心感を得られる関わり～」

Ns 中西千江

認知症情報交換会 in 海部 2024年8月27日

「知っておきたいその他の一次性頭痛疾患」

Dr.石崎公郁子

日本神経学会 第8回特別教育研修会 ～脳卒中・てんかん・頭痛・認知症コース 2024年10月6日

「安全な杖歩行獲得に向けて介入を行った超高齢の誤嚥性肺炎後廃用症候群患者の経過報告」

PT 力野和樹

2024年度西三河支部研修会・症例検討会 2024年12月14日

メディア掲載

「夏も注意!?脳卒中の危険性～脳卒中は冬だけじゃない」

CBC テレビ「チャント！」～チャント知っ得！なるほど
ドクター～ 2024年7月2日放送

「夏も要注意!?脳卒中の後遺症～痙縮とは」ーボツリヌ
ス療法ー

CBC テレビ「チャント！」～チャント知っ得！なるほど
ドクター～ 2024年7月9日放送



CBC テレビ「チャント！」取材の様子（当院撮影）

「VR 活用リハビリ効果ー脳卒中などの後遺症ー運動・認知機能ゲーム感覚で改善」

中日新聞 2024年10月1日朝刊 ～健康面



VR（ヴァーチャルリアリティ）機器操作
取材風景（当院撮影）